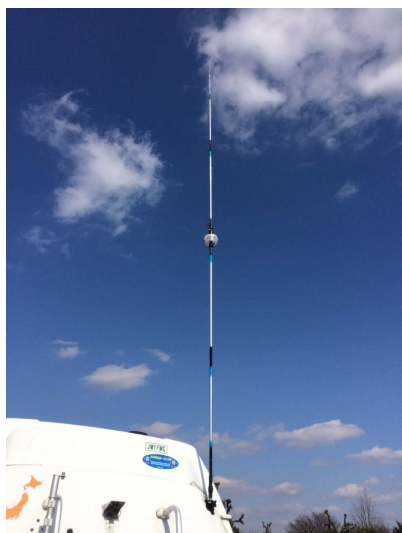


## はじめに

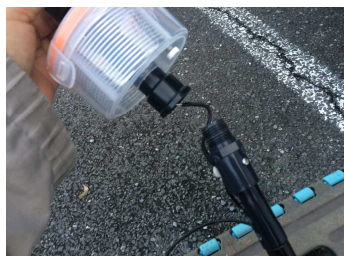


この度は当局製作のアンテナをご利用いただきましてありがとうございます。このアンテナの特徴は次の通りです。

- 大型モービルホイップアンテナ用基台(M型)に取り付けて使用できます。
- 給電部に高耐圧コンデンサを取り付けるための端子が出ています。
- 先端のφ2mmステンレス棒を出し入れして、共振周波数の調整をすることができます。

※性能向上のために掲載の写真とは仕様が異なる部分もありますので、あらかじめご了承ください。

## 最初の準備・組み立て



### コイルの取り付け

納品時は梱包サイズの関係から、コイルを外して箱詰めしています。給電部のある釣竿下部の先端(雄ねじ)にコイル下部(雌ねじ)を取り付け、コイル下部の端子にコードを接続してください。



### φ2mmステンレス棒の取り付け

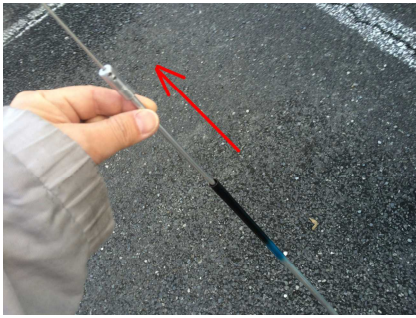
納品時はステンレス棒を釣竿本体にセロテープで仮止めしています。釣竿先端の接続金具に差し込み、六角レンチで取り付けます。25cmぐらいの長さで仮に固定しておきます。

イモネジは強く締め付けしないでください。アルミ製のねじ穴がつぶれてしまうことがあります。

これで事前準備は完了です。  
この状態で運用場所まで運んでください。移動先での設営を簡単に済ませることができます。



## 設置方法



### 釣竿上部を伸ばす

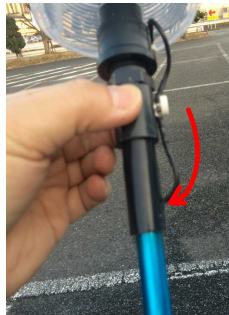
ステンレス棒接続金具を持って、釣竿を伸ばします。根元の穴へ、ビニルコードがスルスルッと入っていきます。うまく滑らないときは、ビニルコードを軽く押し込みながら先端を引っ張ってください。

※無理な力を加えると壊れますのでご注意ください！



### 釣竿下部を伸ばす

コイルの下部を持って、釣竿を伸ばします。ビニルコードがスルスルッと入っていきます。ビニルコードは指3本が入るくらいに余るようになっていきますので、無理に釣竿を伸ばさないようご注意ください！



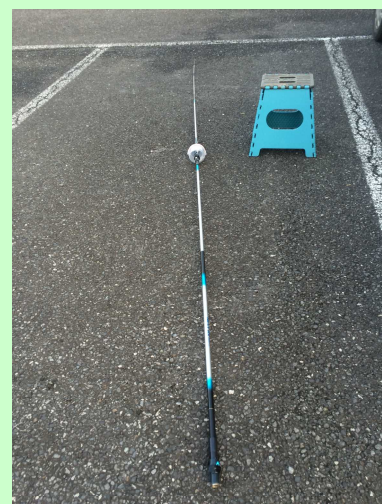
### 上下の釣竿を連結

上下の釣竿を連結します。ねじ込むときは釣竿上部の根元と釣竿下部のコイル上部を持って回します。軽く止まるまでで充分です。釣竿上部から出ているコードをコイル上部の端子に接続します。

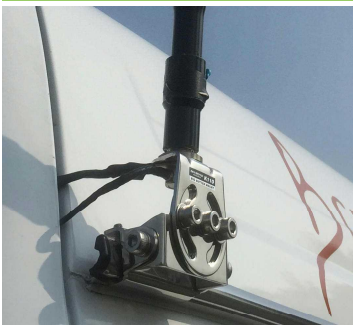


※釣竿の連結は、軽く止まる位置までで充分です。強く回すと外れなくなります！

組み立て完了です。撮影の都合で横に寝かせて組み立てていますが、実際には釣竿を立てて組み立てた方が良いでしょう。



## 基台への取り付け



大手メーカーの、大型アンテナに対応している基台に取り付けてください。メーカー製の2メートル長のHFモバイルアンテナを付けて、時速100kmで走行できるぐらいの基台が必要です。VUアンテナ用の小型モバイル基台では、ちょっとした風でも倒れたり、破損する恐れがあります。

当アンテナのM型コネクタは、深くねじ込むことができるように工夫しています。軽く止まるまでねじ込んでください。決して無理に回さないようにしましょう。外れなくなったら最悪です(>\_<)

基台はきちんと車体にアースされている必要があります。

## 調整

### φ2mmステンレス棒の調整

アンテナ・アナライザまたはSWR(リグに内蔵を含む)を利用してSWRの最良点(同調周波数)を測定します。運用したい周波数とのズレを見て、アンテナ先端のφ2mmステンレス棒の長さを調整します。

概算値ですが、+10mm→-10kHz -10mm→+10kHzとなります。

調整の度に基台から外して、六角レンチでイモネジを緩めて、ステンレス棒を出し入れするという「儀式」が必要となりますが、一度調整を済ませたら、次回からの運用ではよほどの環境の変化がない限りそのまま使えますので頑張りましょう！

### コンデンサの挿入



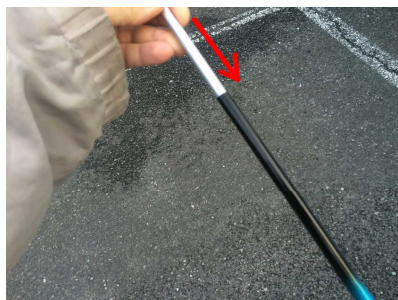
給電部の根元には、マッチング用のコンデンサを挿入するための端子が出ています。下の端子がアース側、上の端子がエレメント側です。高耐圧セラミックコンデンサを使用してください。コンデンサ以外は何も付けしないでください。ショートさせてはいけません。アンテナではなくただの釣竿になってしまいます(>\_<)

## 撤収・片付け

片付けなんて、準備の逆をやれば良いじゃないの……とは思わずにきちんと説明を一読してください。スムーズな片付けにはコツがあるのです。

### 釣竿上部の収納

釣竿の先端のロッドを少しだけ緩めてから、根元のコードを引っ張ります。スルスルッと先端のロッドが2本目のロッド内に収納されます。



## コードの取り外し



ネジを緩めて、コードを外します。ネジはなくさないように軽く締めておきましょう。

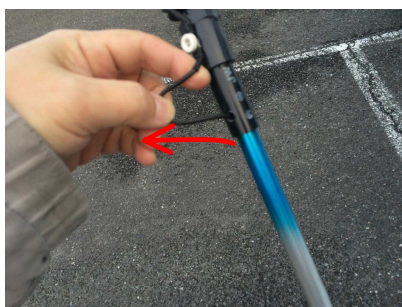
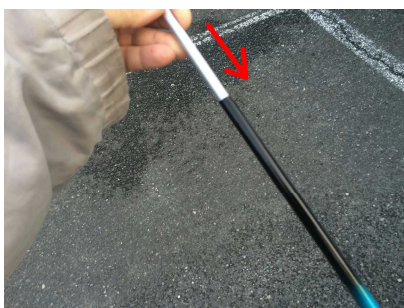
## 釣竿上部と下部の取り外し



釣竿上部の根元とコイル部の上部を持って、上下の釣竿を分割します。強く締めすぎたときは、焦らずに滑り止めシートなどを巻いて、丁寧に外してください。このとき、コイルの下のロッド部を持って回さないでください。**コイルがねじれたりして、破損する恐れ**があります。

## 釣竿上部の収納

3段目のロッドと4段目のロッドを緩めてから、4段目のロッド上部から出ているコードを引っ張ります。すると、ロッドがスルスルっと短くなっていきます。このとき、ロッドを無理に押し込まないでください。ビニルコードが断線したり、給電部とのハンダ付けがとれてしまったりする恐れがあります。



以上で片付けが終了です。1ページ目の写真の状態に、クルマに入れて次回の移動運用に備えましょう。当アンテナをオークションで入手した方は、オークションの取引としてはノーサポートですが、ハム仲間としてのご質問にはいつでもお答えします。(気長にお待ちいただける方)

[jm1fmg@jarl.com](mailto:jm1fmg@jarl.com) まで

## 補足説明

**強**風時に、大きくアンテナがしなり、SWR値が上下に変化することがあります。なかなかその原因がわからなかったのですが、どうやら給電部に取り付けているコンデンサ用のアース側の端子の接触不良が原因であるようです。この部分は、オニナットの先端を同軸コネクタの外側に接触させる構造となっているのですが、想定外の強風によって塩ビ管継手がしなると、接触不良になるようです。強風時にはアンテナ基台の破損防止のために撤収することが原則ですが、突風でこの部分に不具合が出た場合は、ハンマー等で軽くたたいて密着させることで回復します。強くたたきすぎるとコネクタが破損する恐れがあるので、ご注意ください。

